おてらからはじめよう
善立寺てらからプロジェクト

てら
から

香蓮

―第四号 平成二十六年夏―

特集

『清浄華院』なんと読む？

仏教と音読みの歴史

お知らせ

送り盆燈明会はじめます

竜嗣の仏教メモ

「てらから」に込めた想い

巻頭

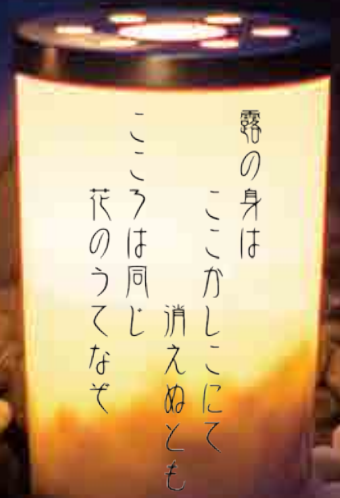
住職・副住職挨拶

御詠歌解説

善立寺檀信徒会新役員決定のお知らせ

平成 26 年上半期の活動

今年度の法要・催しのお知らせ



Photo&Designed by Koji Ryuji

住職挨拶

「温故知新」

松本文書館前館長、小松芳郎先生による「松本藩の廃仏毀釈」の講演をお聞きする機会がありました。

先生によると「松本藩の廃仏毀釈は徹底的に行われ、当時、松本藩に属していた野村地区では、住民全員が神道になった」という記録があるとのこと。

そして、そのような状態から再び仏教に還り、善立寺が、廃寺から再興できたのは、「野村住民の熱意がそれほど強かったため」とのお言葉も頂きました。今日の善立寺を護持する者として、改めて肝に銘ずる言葉でありました。

平成二十六年七月吉日

住職　小路祥永

大本山増上寺（東京港区芝）

副住職挨拶

昨年十二月、一人前の浄土宗僧侶の証「教師」を頂くための最後の修行「伝宗伝戒道場」を大本山増上寺にて成満し、晴れて浄土宗教師となることができました。

出家してから約三年間、一般在家出身の私にとっては、戸惑い、辛く厳しい事も多々ありました。

それを乗り越えられたのも、いつも暖かく見守って下さった檀信徒会役員の方々をはじめ、檀信徒の皆様のお力添えのおかげでございます。

今後は通夜・御葬儀・御法事等で伺う事もありますが、何卒宜しくお願い致します。

平成二十六年七月吉日

副住職　小路竜嗣

盆燈明会はじめます

境内ライトアップの様子（平成 25 年 8 月 16 日）

燈明に願いをのせて

昨年、好評だった送り盆の境内ライトアップですが、今年から『善立寺送り盆燈明会』として開催致します。

元々は、送り火にいらっしゃる皆様のお足元を照らすために、始めた企画でしたが、ロウソクの優しい色合いが綺麗だったというご感想を多く頂きました。

そこで、今年から、燈明に皆様の願いを記入して頂く企画を実施致します。

「ご先祖様に願う事、阿弥陀様に願うこと」など、皆様の願いを書いて頂き、阿弥陀様・ご先祖様に想いを巡らせる機会になればと考えております。

書いて頂いた燈明は当日16時の日没法要にて、ご回向させて頂いた後、境内に配置致します。

また、燈火は、ご本尊　阿弥陀如来様の燈明から頂く計画です。

燈明の記入場所は本堂1階の会館に設置しております。また、寺務室にも常備しておりますので、お越しの際には、お気軽にお声掛け下さい。

善立寺送り盆燈明会

日にち：平成２６年8月１６日

法　要：１６：００（参拝自由）

点　灯：１８：００頃

記入無料　当日まで随時受付中

詳しくは善立寺まで

皆様のご参加お待ちしております

特集

仏教と音読みの歴史

清浄華院なんと読む？

京都にある浄土宗大本山「清浄華院」は「ショウジョウケイン」と読みます。初見ではまず読めないと思います。同様に、善立寺は「ゼンリツジ」ではなく「ゼンリュウジ」と読みます。他にも仏教用語は変わった読み方が多いですが、それには、仏教が伝わった時代が深く関係しています。

中国から漢字と読みを輸入

まず、漢字の音読みには大きく分けて「呉音（ごおん）」・「漢音（かんおん）」・「唐音（とうおん）」の3つがあります。これらは日本に伝わった時代が異なります。

経典は6世紀頃、中国から伝わりました。当時、中国には「呉音」しかありませんでした。そのため、日本に伝わった経典や仏教用語も当然、呉音を用いました。

ところが、7世紀になると、当時の中国王朝は旧王朝の読みである、「呉音」を完全に廃止し、代わりに「漢音」を導入しました。

遣隋使が中国に渡った際、日本で使われていた「呉音」が通じず、大変驚いたそうです。

帰国した遣隋使は、これは大変なことだと、朝廷に最新の言語として、「漢音」を紹介しました。

当時の言語学は、現代で言えば、科学技術のようなものです。どのような言葉を使うかは、その国の国力を示すものでした。そのため、当時の日本朝廷は大陸に対して、我が国の国力を示すため、最新の言語である「漢音」の普及に尽力しました。

桓武天皇、漢音普及に尽力も…

その中でも桓武天皇は漢音普及のために尽力しました。当時のいわゆるインテリ層であった僧侶に対し「経典は漢音を読む事」との勅令も出しました。

しかし、僧侶達は、何百年も継承されてきた経典の読み方を変える事に強く反発しました。結果として経典は、平成の世に至っても「呉音」のまま読まれています。

また、一般社会においても、既に広く使用されていた「呉音」を完全に廃止するまでには至りませんでした。

更にその後、中国に留学した禅僧達により「清」を「シン」と呼ぶような「唐音」も輸入されました。

中国より複雑な日本の読み体系

この結果、日本では呉音・漢音・唐音という3種類の読みを併用するという、中国よりも複雑な読み体系になりました。

例えば、『清』は呉音では『**ショウ**』、漢音では『**セイ**』、唐音では『**シン**』と読みます。

一方、今、中国では古い読みは全て失われて、『**チン**』という読みしか残っていません。

現在、中国の歴史学者は、中国で失われた読みを日本語から学ぶという日本から中国への『読みの逆輸入』も起こっています。

このように、日本語の音読みの歴史には仏教が深く関わってきました。普段何気なく使っている言葉にも、意外な歴史が隠されていますね。

桓武天皇 (737 年 - 806 年) 延暦寺所蔵

遣唐使船（復元）

呉音読みの言葉の例

漢字	呉音読み
光明	こうみょう
末期	まつご
礼拝	らいはい
上人	しょうにん
清浄華院	しょうじょうけいん
善立寺	ぜんりゅうじ
建立	こんりゅう
修正会	しゅしょうえ
荘厳	しょうごん
発願	ほつがん

竜嗣の仏教メモ

「てらから」に込めた想い

昨年より始めた、『おてらからはじめよう　善立寺　てらからプロジェクト』この寺報の表紙やポスターなどにロゴマークをつけています。今回はこの「てらから」に込めた私の想いをお伝えします。

今日、お寺は御葬儀を頼まれる、御法事を頼まれる、など皆様から「頼まれる」という、受動的な活動が多いです。

てらから

「てらから」ロゴ

寺報「香蓮」

それに対し、「てらから」はその名の通り、『おてらから始める』という意味です。頼まれるのではなく、お寺から皆様へ、何かを伝える、体験していただく事を目的とした計画です。

趣旨としては、目新しさや斬新さではなく、「お寺が持っている価値を、今、もう一度組み直すとしたら、どんなものがいいだろうか」という観点で企画を行っています。寺報・ポスターに関しては、企画から写真、校正に至るまで、全て私が行っています。

仏教・浄土宗の教えって一度触れてみると、とても面白いです。仏教は、お坊さんだけが行うものではなく、誰もが日々、実践できるものです。ご葬儀や法要の数時間だけじゃ勿体無いです。

皆様お一人お一人が仏教に興味を持っていただけるよう、今後も精進致しますので、ご理解、ご協力のほどお願い致します。

自作の寺内掲示ポスター

絵は寺庭（住職夫人）

デザインは副住職

私達が伝えたい事を

私達の手で伝えよう

盆燈明会

燈明は暗闇を照らす明かり

昔から伝わるものを

新しいかたちで

体験してみよう

表紙の御詠歌

露の身は　そこかしこにて　消えぬとも
こころは同じ　花のうてなぞ
法然上人

意訳

私達の命は草木の露のようにいつ消え行くか分からないはかなきものです。
ですが、お念佛をお唱えすれば、いつ何時果てようとも、極楽浄土の蓮の台（うてな）で再会できる事を忘れてはなりませんよ。

この歌は、法然上人が75歳の時、四国へ流罪になられた際、親交深かった九条兼実（くじょうかねざね）公が、これが今生の別れとなってしまうと嘆いた事に対して、法然上人が詠われました。

兼実公はその後まもなく、急逝されました。法然上人から最期に頂いたこの御歌がどれほど心強い言葉だったでしょうか。

南無阿弥陀仏とお唱えする私達は必ず六道輪廻を離れ、極楽浄土に往生します。

そしてその極楽浄土で、先立った家族・友人に再び出会う事が出来ます。

別れはいつの日か必ず来るものです。そして、私達自身も、いつか滅する身で有ることを忘れてはなりません。

だからこそ、極楽浄土での再会のために、日々、お念佛をお唱えしましょう。

お知らせ

檀信徒会　新役員決定

平成26年4月6日、檀信徒総会にて、新役員が決定致しました。（任期は平成26年4月から28年3月末まで）

また、前役員の皆様、2年間お疲れ様でございました。この場を借りてお礼申し上げます。

新役員の皆様

平成26年上半期の善立寺

修正会

1月7日、当山にて年始の法要である修正会（しゅしょうえ）を行いました。修正会は、前年の行いを反省し、新年の家内安全、五穀豊穣などを祈願する法要です。今年も大勢の檀信徒様のご参加により、新年に相応しい法要となりました。

塩尻市仏教信和会托鉢

4月1日から15日まで、塩尻市仏教信和会主催の托鉢に廻りました。塩尻市仏教信和会は、浄土宗・真言宗・曹洞宗等、宗派を超えた塩尻市の寺院の集まりです。集まった浄財は花祭りの資金、塩尻福祉協議会への義援金、また大震災の義援金として活用させて頂きました。

塩尻仏教信和会　托鉢

信和会花祭り

5月11日、洗馬の興龍寺様にて信和会主催の花祭りが開催されました。今年は天候にも恵まれ、大勢の方が参拝されました。法要の後は、ピアノコンサートが催されました。甘茶と音色で心も体も温まる花祭りでした。

信和会花祭り　興龍寺様

信州筑摩観音例大祭

6月25日、上西条の慈光院様にて筑摩観音例大祭が執り行われました。

浄土宗・真言宗・曹洞宗・臨済宗等、宗派を超え30名以上の僧侶による読経は圧巻でした。

中央佛教会主催夏期大学

7月5日、松本市のみすず野法祥苑にて、当山住職が総務を務める信濃中央佛教会主催の夏期大学が開催されました。松本市文書館前館長の小松芳郎先生による「松本藩の廃仏毀釈」、東京工業大学名誉教授本川達雄先生による「ゾウの時間ネズミの時間」をご講演いただきました。200名を超える方々にご来場頂き、皆様、熱心に耳を傾けていらっしゃいました。

夏期大学の様子

善立寺　今後の行事予定

7月10～13日	関東地区棚経
7月28日（月）	大施餓鬼会
7月末～8月15日	棚経
8月16日（土）	盆燈明会
8月24日（日）	浄梵会
11月3日（月・祝）	薬師・観音祭
12月28日（日）	仏名会
平成27年1月7日	修正会

編集後記

本号から8ページ構成に致しました。編集ソフトも刷新して、質・量共に充実してきました。皆様の「見たよ」のお言葉が本当に励みになっています。今後もご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。　副住職　竜嗣

平成26年7月20日　発行所　方便山善立寺　塩尻市広丘野村793-1　電話0263-53-2645　発行人：小路祥永　編集人：小路竜嗣